

第1節

まちづくりの主役である

「ひとづくり」

子育て

教育

スポーツ・文化

男女共同参画・平和・人権

(1) 子育て ～子どもの成長を育むまち～

ア 一人ひとりの育ちを大切に作る環境づくり

施策の概要

子どもたちの健やかな成長，発達を支援する環境づくり，放課後の子どもの居場所づくりに取り組みました。

施策の成果

各保育所において，平成30年度から取り入れた「心と身体を豊かに育む『リズムあそび』」に継続して取り組み，三次市子どもの未来応援宣言の基本方針である“可能性と希望，そしてチャレンジ”を応援するための土台づくりを進めました。また，各種研修を計画的に実施し，保育士などのスキルアップ・保育の質の向上を図りました。

こども発達支援センターは，引き続き保育所・保護者・保健師などとの連携に努め，発達に課題のある子どもたちの早期支援体制の充実を図りました。

また，放課後の居場所づくりを通じて，子どもたちの安全・安心が確保され，地域住民との交流も図られました。

事務事業の実施状況

■ こども発達支援センター運営事業（子育て支援部）

健診などで発達面に心配のある乳幼児を早期に発見し，専門職員による発達相談や親子通所教室での指導が受けられる支援施設として，こども発達支援センター「すまいる」を開設しています。

日常生活への適応などについて，早期の支援を行う通所教室では，楽しい遊びを取り入れ，小集団の中で心身の発達を促すとともに，保護者が子どもへの理解と認識を深め，子育ての不安を軽減できるように支援を行いました。

また，保育の中での発達支援の充実をめざし，専門講師による保育所などの巡回相談を行いました。さらに，保育士・保健師などの専門職を対象にした研修会を開催し，児童や保護者への適切な対応などについて理解を深めスキルアップを図りました。

■ 放課後子ども教室事業（教育委員会）

小学校1年生から6年生までの児童を対象として，放課後や夏休みなどの学校休業日に，勉強やスポーツ・地域住民との交流活動などを行い，子どもたちが心豊かで健やかに育まれる場として，放課後子ども教室を開設しています。

市内9ヶ所（河内・粟屋・布野・作木・川地・青河・田幸・川西・君田）で，住民自治組織などへ運営を委託して行い，地域住民が直接子どもたちに関わることで地元で根付いた活動となりました。各教室では，工作教室やスポーツ活動，落語など個性的な学習プログラムも行われ，子どもたちの可能性が広がる取組が行われています。

■ 放課後児童健全育成事業（教育委員会）

保護者が就労などにより昼間留守にする家庭の小学校1年生から6年生までの児童を対象として，放課後や土曜日，春，夏，冬休みなどの学校休業日に，家庭に代わる生活の場として，遊びを中心とした活動を行う放課後児童クラブの運営を行い，子どもたちの健全な育成を図りました。

<放課後児童クラブの年間利用児童数>

(単位：人)

放課後児童クラブ名	定員	児童数
三次小学校第1放課後児童クラブ	45	39
三次小学校第2放課後児童クラブ	45	38
十日市第1放課後児童クラブ	80	69
十日市第2放課後児童クラブ	40	37
十日市第3放課後児童クラブ	40	36
十日市第4放課後児童クラブ	40	34
神杉放課後児童クラブ	35	23
酒河第1放課後児童クラブ	40	24
酒河第2放課後児童クラブ	40	23
八次第1放課後児童クラブ	45	39
八次第2放課後児童クラブ	40	39
八次第3放課後児童クラブ	30	25
八次第4放課後児童クラブ	45	37
八次第5放課後児童クラブ	30	29
八次ふれあい放課後児童クラブ	40	37
和田放課後児童クラブ	35	28
吉舎放課後児童クラブ	35	18
三良坂放課後児童クラブ	40	25
三和小学校放課後児童クラブ	35	28
甲奴放課後児童クラブ	40	22
ちゅうおう放課後児童クラブ	55	47
計	875	697

<小規模型放課後児童クラブ事業補助金交付対象クラブ>

1ヶ所(八幡)

■ 心と身体を豊かに育む「リズムあそび」推進事業（子育て支援部）

直営保育所では、「耳で聞いて自分で判断したり，自分の身体を自分でコントロールする」などを基本的な柱とする「リズムあそび」を，毎週最低1回（30～60分程度）実施しました。

平成30年度に実施した研修の成果を踏まえ，公開研修会を5回行うなど，子どもたちが，楽しみながらあそびが広がる環境づくりに取り組みました。



リズムあそびの様子

■ 第2期子ども・子育て支援事業計画の策定（子育て支援部）

第1期計画の計画期間が終了するあたり，子育て世代が抱える課題を把握し，本市の教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の提供体制確保などの円滑な実施に向けた事業計画として，「第2期子ども・子育て支援事業計画」を策定しました。

「子育てに夢がもてるまち みよし～女性が働きながら子育てできる環境 日本一をめざして～」の基本理念のもと，総合的に施策を推進します。

■ 第2期三次市立保育所規模適正化推進計画（前期）に基づく取組（子育て支援部）

「第2期三次市立保育所規模適正化推進計画（前期）」に基づき，八幡保育所については，保護者や地域住民と十分な議論と共通の理解のもと，吉舎保育所に統合することとし，休所としました。

■ 障害児保育事業補助金（子育て支援部）

三次市子どもの未来応援宣言の一人ひとりを大事に支援していくという方針に基づき，民間委託保育所・私立保育園に対して，障害児などに対する支援保育士の人件費を助成し，職員体制整備の保障を行いました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
こども発達支援センター運営事業	30,085	国県支出金 247 その他 29,832	6	開設日数 239 日 利用延人数 3,714 人
放課後子ども教室事業	23,234	国県支出金 7,175	16,059	9ヶ所 加入者 158 人
放課後児童健全育成事業	147,779	国県支出金 78,860 その他 65,839	3,080	放課後児童クラブ (公営20ヶ所, 委託1ヶ所) 利用者数 697 人 小規模型放課後児童クラブ 事業補助金交付(1ヶ所) 利用者数 8 人
心と身体を豊かに育む「リズムあそび」推進事業	253	国県支出金 126	127	研修延参加者 605 人
第2期子ども・子育て支援事業計画策定業務	1,628	その他 1,628		策定支援業務委託
障害児保育事業補助金	20,074		20,074	保育所 3 所 認定こども園 1 園
計	223,053	183,707	39,346	

イ 子育てしやすい家庭環境づくり

施策の概要

ネウボラみよし（三次市妊娠・出産・子育て相談支援センター）を中心とした、妊娠前から妊娠・出産・子育て期まで切れ目のない支援に取り組みました。

誰もが安心して産み育てることのできる総合的な子育て支援として、妊娠から出産、子育てにかかる費用について助成し、経済的負担や子育てに対する不安感の軽減につながりました。また、多様な子育て・保育ニーズに対応したサービスの充実を図り、子育てと仕事の両立をめざして、総合的な子育て支援体制の整備に取り組みました。

施策の成果

医療費助成のほか保育利用料などの負担軽減制度や、子どもの年齢に応じた様々な子育て支援策の実施など、子どもを安心して産み育てることのできる環境づくりを進めました。

子育てと仕事の両立を支援するために、延長保育や病児・病後児保育、土曜日午後保育を拡充するなど、様々な保育サービスを提供するとともに、保育所の施設改修などを行い、保育環境の充実を図りました。

また、待機児童の解消や3歳未満児保育の実施など、保育の充実を図るため、田幸保育所の乳児保育室などの整備を行いました。

特定不妊治療・不妊検査・一般不妊治療・不育治療費助成事業を行い、不妊治療と不育治療の負担軽減につなげました。

また、妊娠から子育てまで切れ目のない相談支援として、「ネウボラみよし（三次市妊娠・出産・子育て相談支援センター）」を中心とした相談支援体制の充実を図り、妊娠・出産・子育てに関する多数の相談支援を行いました。市内関係医療機関や市立三次中央病院との連携強化と相談体制の充実を図り、医療機関と保健師などによる早期支援を行うことにより、産後の不安の軽減につながりました。



市立三次中央病院 産婦健康診査の様子



ネウボラサテライト 保健師の巡回相談

事務事業の実施状況

■ こども医療費助成事業（子育て支援部）

18歳までの子どもに対して、一部負担金を1医療機関につき通院500円（月4日まで）、入院500円（月14日まで）とし、補装具、院外処方薬剤は無料とする医療費助成を行いました。子どもの疾病の早期発見及び治療を促し、子どもの健やかな成長と、子育てに係る経済的な負担の軽減につなげました。

■ 妊産婦健康診査助成事業（福祉保健部）

妊産婦の健康管理の充実及び経済的負担の軽減を図るため、妊婦一般健康診査検査券（1回）、妊婦一般健康診査（14回）、子宮頸がん検診（1回）、クラミジア検査（1回）、妊婦歯科健診（1回）、産婦健康診査（2回）の費用を助成しました。

産前から産後までのほぼ全ての定期健康診査の助成を行い、妊娠や出産にかかる経済的負担を軽減し、妊産婦の健康管理の充実を図ることにより、妊娠届の早期提出や産後うつ予防のための早期支援につながりました。

■ ネウボラみよし事業（妊娠・出産・子育て相談支援センター）（福祉保健部、子育て支援部）

ネウボラみよしの拠点を市役所東館2階とし、またサテライトを2ヶ所から3ヶ所（地域子育て支援センター）に拡充しました。サテライトでは保育士、保健師、助産師などが相談対応し支援体制の充実を図りました。

また、妊婦全戸訪問、産後ケア事業、産前・産後サポート事業、産前・産後ヘルパー派遣事業、パパママ教室などを行い、妊娠期から子育て期を通して安定した養育支援環境の確保に努めました。ネウボラサテライトでの相談が多く、相談などの延件数は平成30年度より890件増加しました。地域では、母子保健推進員をはじめ関係機関との協力、連携により地域で子育て家庭を見守る環境づくりに取り組みました。



パパママ教室の様子



ネウボラみよし拠点
（市役所東館2階）の様子



ネウボラサテライトの様子

■ 不妊治療費・不育治療費助成事業等（福祉保健部）

特定不妊治療（体外受精及び顕微授精）、不育治療費、不妊検査・一般不妊治療に要する費用に対し、県助成額を除いた費用の全額助成を行いました。経済的負担の軽減を図ることにより、安心して治療を受けることができる環境づくりや子どもを産みやすい環境の拡充に努めました。

■ 地域子育て支援センター運営事業（子育て支援部）

公営3ヶ所、民営4ヶ所の地域子育て支援センターを拠点として、子育て相談、遊びの場の提供、子育て講座などを行いました。また、北部・南部地域においても交流の場を設け、子育てミニイベントや子育てに関する相談などを行いました。

令和元年度から、酒屋地域子育て支援センターと「あそび工房」に加え、三良坂地域子育て支援センターを「ネウボラみよし」のサテライトとして位置付け、保健師や栄養士による巡回相談により、専門的な相談や支援を行いました。

また、10月の「ネウボラみよしフェスタ2019」では、各地域子育て支援センターを紹介する展示や、地域子育て支援センターを体感できるスペース及び、手作りおもちゃのコーナーを設けて周知を図りました。

■ こどもの「遊び」推進事業（子育て支援部）

季節や天候に左右されず、親子が安心して遊べる場所「三次市こどもの室内遊び場（みよし 森のポッケ）」を運営し、親子のふれあいと、木のおもちゃを中心とした木育を推進しました。

また、気軽に入館していただけるよう、外から見える位置にワークショップスペースを設置しました。おもちゃの追加や模様替えなど機能強化を図り、「KAPLA®ブロックにチャレンジ!!」などのイベントを開催するなど、リピーターの確保に努めました。



フィンランドテイストのお家



マルシェエリア



ファーマーズエリア

■ みよし運動公園周辺整備事業（東酒屋南駐車場等）（建設部）

みよし運動公園及び東酒屋地区周辺施設の駐車場不足に対応するため、「みよし 森のポッケ」の南側に新たに113台収容できる駐車場の整備を行いました。

■ 保育の充実（子育て支援部）

保護者の就労や疾病などにより保育を必要とする児童に対し、多様な保育ニーズに対応した保育を行いました。養護と教育が一体となった保育を進め、健康で豊かな人間性を持った子どもの育成に努めました。

令和元年度には、必要な施設改修を行い、田幸保育所で3歳未満児保育を開始しました。さらに、田幸保育所ほか3所の保育終了時間を18時から18時30分に変更し、市内保育所の保育終了時間を統一しました。

また、安心して預けられる保育所とするため、施設の衛生面や利便性の向上のための環境改善などに取り組みました。その他、愛光保育所ほか6所に大型遊具を設置し、遊具の充実と親子で安心して遊べる場所として、休日に保育所の園庭を開放しました。

■ （新）幼児教育・保育の無償化（子育て支援部）

令和元年10月から、少子化対策を目的に、子育て世代の負担軽減措置を行う国の制度「幼児教育・保育の無償化」がスタートしました。これにより、幼稚園、保育所などを利用する3歳から5歳までの子どもたちと、市民税非課税世帯の0歳から2歳までの子どもたちの保育利用料などが無料となりました。

また、幼稚園・保育所などに入園している児童に対する副食費を軽減し、子育てに係る経済的な負担の軽減を図りました。

■ 多子世帯保育利用料（保育料）軽減制度（子育て支援部）

保育所・幼稚園・認可外保育所に通う第2子目の保育利用料（保育料）を半額、第3子目以降の保育利用料（保育料）を無料にし、多子世帯の保護者の経済的な負担軽減を図りました。

■ 病児・病後児保育事業（子育て支援部）

病児・病後児保育室「すくすく」を市立三次中央病院内に、病後児保育室「おひさま」を酒屋保育所内にそれぞれ開設し、病気の回復期に至らない時期からの児童の看護及び保育を行い、保護者の子育てと仕事の両立に向けて支援しました。

■ 風しん予防接種（任意）費用助成事業（福祉保健部）

妊婦が風しんにかかると生まれてくる赤ちゃんに先天性風しん症候群が生じる可能性があるため、先天性風しん症候群の予防を図ることを目的に、風しん抗体価が十分でないことを確認できた産婦及び妊娠を希望する女性、妊婦と同居する家族に対し、風しん予防接種費用を助成しました。

■ （新）風しん抗体検査・風しん予防接種クーポン券事業

風しん抗体を持たない人が一定数存在するとされる年代の男性を対象に、風しん抗体検査及び定期予防接種を無料で実施しました。令和元年度は、昭和47年4月2日生まれから昭和54年4月1日までに生まれた男性約2,400人にクーポン券を送付し、抗体価検査実施者数は681件（実施率28%）で、予防接種実施者数は195件あり、風疹の予防推進につながりました。

■ 学びの支援活動推進事業（教育委員会）

子どもたちの基礎学力の定着・向上を支援するため、学習指導に取り組んだNPO法人に対し補助金を交付し、子どもの学びの支援を行いました。

■ ひとり親家庭等自立応援プロジェクト事業（子育て支援部）

経済的に支援を必要とするひとり親家庭などの学び・仕事・住まい・生活を応援するため、「ひとり親家庭等入学支度金支給事業」【学び】の増額、「ひとり親家庭等高等職業訓練促進費給付事業」【仕事】、「ひとり親家庭等スポーツ観戦・文化鑑賞事業」【生活】を行いました。また、令和元年度からこれまでの家賃補助事業を制度改正し、離婚などによりひとり親となった家庭の住居確保を支援するため、住居移転費用と家賃の一部を補助する「ひとり親家庭等住居確保支援事業」【住まい】を実施し、ひとり親家庭などの自立を支援しました。

■ 子育て支援課相談室事業（子育て支援部）

家庭児童相談員、婦人相談員、母子・父子自立支援員を配置し、DV（ドメスティック・バイオレンス）など女性の困りごと、子育ての悩み、ひとり親家庭の支援に関する事など、どこに相談したらよいかわからない相談などに対し、専門の相談員が応じ、庁内及び関係機関と連携を図りながら、問題解決に向けたサポートを行いました。

また、平成30年度からの「ネウボラみよし」に位置づくことで、児童虐待、DVの早期発見、早期対応による防止の強化を図りました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとつくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
こども医療費助成事業	145,671	国県支出金 25,745	119,926	対象者 7,330 人
妊産婦健康診査助成事業	30,227	国県支出金 1,179 その他 26,229	2,819	受診人数 309 人 妊婦健診受診延人数 5,097 人 産婦健診受診件数 495 件
妊婦歯科健康診査事業	486		486	受診人数 136 人
ネウボラみよし事業(妊娠・出産・子育て相談支援センター)	9,442	国県支出金 6,262 その他 2,336	844	相談等延件数 12,961 件 (主な事業内訳) 妊婦訪問 238 件 産後ケア事業(母乳育児相談助成事業)利用人数 74 件 産前・産後サポート事業(母子保健推進員乳児訪問)件数 20 件 産前・産後ヘルパー派遣事業利用件数 22 件(延 180 件)
不妊治療費助成事業, 不育治療費助成事業, 不妊検査・一般不妊治療費助成事業	23,210		23,210	不妊治療申請延件数 59 件 不妊検査・一般不妊治療申請延件数 56 件 不育治療申請件数 2 件 妊娠届出件数 29 件
乳幼児等予防接種費用助成事業	2,526		2,526	おたふくかぜ 421 件

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など	
		特 定 財 源	一般財源		
地域子育て支援センター運営事業	49,127	国県支出金 30,746 その他 18,381		年間延利用者数（親子総数） (公営)酒屋地域子育て支援センター 3,748人 (公営)三良坂地域子育て支援センター 2,342人 (公営)あそび工房 8,248人 (民営)認定みゆきこども園 地域子育て支援センター 1,037人 (民営)ちゅうおう憩いの森地域子育て支援センター 1,197人 (民営)太才町 DASAIYA 475人 (民営)だっこルームみよし 7,191人	
こどもの「遊び」推進事業	22,638	起債 6,700 その他 9,539	6,399	利用者数 43,534人	
みよし運動公園周辺整備事業（東酒屋南駐車場等） 《繰越明許分》	103,616	起債 103,200	416	駐車場整備の用地取得・工事	
保育の充実	1,378,745	国県支出金 298,936 その他 142,142	937,667	定員 1,966人 (公立 1,686人, 私立 280人) 月平均児童数 1,455人 (公立 1,154人, 私立 301人)	
保育所改修等事業（東光保育所）	6,245	起債 6,200	45	土地購入, 設計業務委託	
保育所改修等事業（田幸保育所）	10,368	起債 10,200	168	設計監理, 改修工事, 備品購入	
保育所大型遊具整備事業	8,757		8,757	備品購入 7保育所	
幼児教育・保育の無償化	保育所	(66,926)	—	—	公立保育所 789人 私立保育所 61人 認定こども園 70人 広域入所 1人 ※事業費は, 制度開始により無料となった保育利用料等の額（10月～3月・推計）
	幼稚園ほか	41,809	国県支出金 31,357	10,452	【10月～3月の平均児童数】 幼稚園 219人 認可外保育施設 39人 ※事業費は, 施設等利用給付費の支給額

第1節 まちづくりの主役である「ひとつくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
副食費の軽減	保育所 (24,867)	—	—	公立保育所 789人 私立保育所 61人 認定こども園 70人 広域入所 1人 ※事業費は、無料となった副食費の額(10月～3月・推計)
	幼稚園ほか 4,064	国県支出金 205	3,859	幼稚園 237人 認可外保育施設など 44人 ※事業費は、副食費軽減補助金交付額
多子世帯保育利用料軽減制度	89,370		89,370	対象者 504人
多子世帯保育料軽減補助金	9,567		9,567	対象施設 7施設 (幼稚園3, 認可外保育所4) 対象者 117人
病児・病後児保育事業	9,599	国県支出金 6,126 その他 408	3,065	病児・病後児保育室すくすく 開設日数 240日 延べ利用者数 158人 病後児保育室おひさま 開設日数 289日 延利用者数 66人
風しん予防接種費用助成事業	146		146	申請件数 36件
風しん抗体検査・風しん予防接種クーポン券事業	5,747	国県支出金 2,700	3,047	抗体価検査実施者 681件 抗体価検査実施率 28% 予防接種実施者 195件
学びの支援活動推進事業	1,000		1,000	補助件数 1件
ひとり親家庭等入学金支度金支給事業	2,800		2,800	高等学校等 45人 大学等 29人
ひとり親家庭等高等職業訓練促進費給付事業	4,473	国県支出金 3,084	1,389	給付件数 3件
ひとり親家庭等住居確保支援事業(旧事業含む)	6,860		6,860	補助人数 98人

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
ひとり親家庭等 スポーツ観戦・文 化鑑賞事業	357	その他 347	10	カーブ応援隊バスツアー 17世帯 39人 サンフレッチェ広島応援隊 バスツアー 5世帯 13人 倭 YAMATO DRUMMERS OF JAPAN 7世帯 18人 とらまる人形劇団「あさこと ゆうこ」 5世帯 14人 Disney アラジン 27世帯 71人
子育て支援課 相談室事業	10,894	国県支出金 5,295	5,599	婦人相談件数 297件 (実人数 53人) (うち DV 相談 174件 実人数 21人) 児童家庭相談 426件 (実人数 170人) 母子・父子自立支援相談 251件 (実人数 205人)
計	1,977,744	737,317	1,240,427	

ウ 子育てを地域で支える環境づくり

施策の概要

市全体の子育て力の向上をめざし、子育てを地域全体で支援するという意識の醸成を図り、地域で子育てを支える環境づくりに向けて、事業を行いました。

施策の成果

地域ぐるみで子育てを支援するネットワークづくりに努め、子育て中の親や地域の子育て力の向上を図ることができました。引き続き、子どもたちと地域とのつながりを深める取組を推進します。

事務事業の実施状況

■ 子育てサポート事業（子育て支援部）

子育て中の保護者の負担軽減を図るため、子育てを支援してほしい「おねがい会員」と子育てを支援したい「まかせて会員」による相互支援活動を市が仲介し、地域ぐるみでの子育てネットワークを支援しました。

まかせて会員を増やし確実な支援を行うための講習会や、会員間の信頼関係を深め、相互支援活動の質の向上を図るための交流会をあわせて4回開催しました。

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一 般 財 源	
子育てサポート事業	4,583	国県支出金 1,790	2,793	活動件数 1,295 件 活動時間数 4,291 時間 会員数 926 人 (うち まかせて会員 172 人, おねがい会員 668 人, 両方会員 86 人)
計	4,583	1,790	2,793	

(2) 教育 ～ふるさとが子どもを育て、子どもがふるさとを誇りにできるまち～

ア ふるさと三才を愛し、未来を創造する力を育む教育の推進

施策の概要

市費教員や学校支援員の配置により、個に応じた学習指導や支援、ALT（外国語指導助手）を活用した実践的な英語でのコミュニケーション能力の育成に取り組みました。

施策の成果

少人数指導や個に応じたきめ細かい支援などにより、基礎的・基本的な学習内容の定着や学習意欲が向上しています。また、生徒指導上の課題も早期対応・解決が図られています。

事務事業の実施状況

■ 特別支援教育推進事業（教育委員会）

三次市こども応援センター教育相談員による就学相談や、県・市などの関係機関との連携により、適正な就学指導の支援体制の構築を図りました。また、就学指導委員会を計画的に開催し、幼児・児童・生徒の教育的ニーズに応じた就学の実現に取り組みました。新たな取組として、通級による指導を小学校1校において始めました。

各小中学校において、障害のある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導及び支援を行うために、特別支援教育の専門家を派遣し、特別支援に関する指導を行う巡回相談の実施を行いました。

さらに、特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーターの専門性のさらなる向上を図り、個に応じた指導の充実を図るために、特別支援教育の授業研究や特別支援学校の公開研究会参加などを研修内容とした特別支援教育研修会を開催しました。

■ 学校支援員配置事業（教育委員会）

校長が必要とする教育活動の補助を目的として学校支援員及び教育支援員を配置し、学校における教育活動を充実させ、児童生徒の支援に努めました。

20校に34人の学校支援員及び教育支援員を配置しました。具体的には、通常の学級に在籍し、学習障害（LD）、注意欠陥／多動性障害（ADHD）、高機能自閉症などにより、生活及び学習上の困難を有する児童生徒に対し、学習活動における指導の援助及び学校生活を営む上での援助を行いました。また、いじめ、不登校、暴力行為、授業妨害など課題のある児童生徒が在籍する学級に対する支援、放課後や長期休業中の学習支援、担任をはじめ教員の教務事務補助などを行い、学校での教育活動の充実を図りました。

■ 小中学校外国語教育推進事業（教育委員会）

異文化を理解し尊重する態度や英語で楽しくコミュニケーションを図ろうとする態度の育成をめざし、ALT12人を小中学校に配置し、小学校3～6年生の外国語活動、中学校の英語の授業において、チームティーチング（複数の教師による授業）を行いました。また、小学校1・2年生を対象として、英語活動を行いました。ネイティブの発音を通して児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上を図っています。さらに、授業以外でも、休憩時間、昼食時間、放課後にALTと児童生徒ができるだけ一緒に過ごすなど、最大限にALTを活用しています。

また、小学校5年生から中学校3年生を対象とし、ALT と様々な体験活動を楽しむことができる「イングリッシュキャンプ」（中学生7月、小学生12月）を行い、合計59人の子どもたちが参加しました。ALT からいろいろな国の文化を学ぶ活動や、中学生がALT に本市や広島県のことを紹介する活動などを行い、意欲的に英語でコミュニケーションを図りました。

アンケートには児童生徒全員が「ALT と一緒に活動することが楽しかった。」「もっと英語を聞いたり話したりしたい。」と回答しています。

■ 【子ども夢・未来塾】子どもの体力充実事業（教育委員会）

正しい走り方についての指導を通して、子どもたちに体力の向上と目標を持って頑張ることや夢を実現するために努力することの大切さを学ばせることを目的に「子どもの体力充実事業（走力アップ教室）」を行いました。

令和元年11月22日に、みよし運動公園陸上競技場において、エディオン女子陸上部アシスタントコーチの松尾紗也可さんを招き、走力アップ教室を開催し、市内小学生54人が参加しました。

トップ選手を指導されている方からの直接指導を通して、児童に速く走るコツや走る楽しさを体感させるとともに、夢を実現するために必要なことについて考えさせることができました。

■ がんばる中学生の英語学習応援事業（教育委員会）

本市では、平成28年度から、日本英語検定協会が実施する実用英語技能検定（英検）の受検機会の拡大による中学生の英語力及び学習意欲の向上を図ることを目的として、三次市立中学校に在籍する生徒の保護者に対し、検定料の全額を補助しています。

補助金があることで英検にチャレンジできる生徒が増え、英語への学習意欲が向上してきたなどの中学校外国語科教員からの意見があります。

令和元年度は、566人の児童生徒が英検にチャレンジしました。また、文部科学省は中学生に求められる英語力として、中学校卒業時段階で英検3級相当以上を達成した生徒の割合50%を目標としていますが、本市では、57.6%の生徒が目標を達成しています。

■ 学力ぐんぐん事業（ぐんぐん教員）（教育委員会）

小学校においては少人数学級編制や少人数授業、中学校においては少人数習熟度別授業などを行い、指導方法の工夫改善ときめ細やかな指導を進めました。

小学校では6人（うち講師1人）、理科支援教員3人、小学校外国語指導員3人、中学校では数学科5人（うち講師1人）、外国語科6人（うち講師2人）の計23人の教員を市費により任用し、配置しました。

これにより、各種学力調査において、基礎的・基本的な学習内容の定着が、概ね図られています。

■ 学力ぐんぐん事業（ぐんぐん学力）（教育委員会）

個々の学習の定着度を図り、学校における課題を明確にするとともに、指導内容や指導方法の改善・充実を図るため、全小中学校で1月に学力到達度検査を実施しました。小学校1・2年生は国語・算数、小学校3年生から6年生までは、国語・社会・算数・理科、中学校では国語・社会・数学・理科・英語について実施しました。

また、問題データベースを活用した補充学習や家庭学習を通して、児童生徒の基礎・基本の定着を図るとともに、学力到達度検査の実施後には、問題データベースを活用して、個々の児童生徒の課題克服のための補充指導を実施しました。

■ みよし版わくわく体験活動推進事業（教育委員会）

児童の自立心や主体性を育てるとともに、ふるさと三次の良さを実感させることを目的とし、市内の小学校5年生を対象とし、日常と異なる環境での集団生活を体験したり、自分たちが生活している三次において、地域の自然・文化・歴史に触れ、地域の方々と交流したりする活動を実施しています。

令和元年度は、複式校であり隔年実施の学校3校を除く市内18の小学校が、5年生を対象に市内の施設を利用し、体験活動を実施しました。なお、児童数が多いため、市内での宿泊の受け入れが難しい3校については、国立三瓶青少年交流の家での活動を行っています。

児童意識調査では、体験活動前と後では次のように肯定的に答える児童の割合が増加しています。

項目	体験活動前	体験活動後
相手の立場に立って考えている。	87%	90%
進んで仲間と協力したり助け合っている。	90%	94%
三次市には、じまんでできることや所がたくさんあると思う。	90%	91%

■ 学校 ICT 整備事業（教育委員会）

令和2年度から順次全面実施される新学習指導要領においては、小学校段階でのプログラミング教育の導入や学習活動において積極的に ICT（情報通信技術）を活用することが求められています。

本市では、新学習指導要領において求められる学習活動を全ての学校において実現できるよう、平成30年度から新たに学校 ICT 整備事業に取り組み、計画的に整備を進めています。

令和元年度は、ICT 支援員を1人派遣し、ICT 機器の効果的な活用方法やプログラミング教育の進め方など、学校の実態に応じた支援を行いました。

■ （新）部活動指導員配置事業（教育委員会）

部活動は、生徒の自己肯定感を高めたり、人間関係の構築を図ったりするなど、生徒の学びの場としてとても意義のあるものです。スポーツや文化活動などの専門的な知識や技能をもつ部活動指導員を配置することで、より一層の部活動の充実と、教職員の「働き方改革」の推進をめざしています。

令和元年度は、バレーボール部2人、吹奏楽部1人、計3人の部活動指導員を配置しました。

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
特別支援教育推進事業	37,527		37,527	特別支援教育研修会参加者数 76人 通級による指導を開設（小学校）
学校支援員配置事業	53,846		53,846	学校支援員及び教育支援員数 34人

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位:千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
小中学校外国語教育推進事業	64,500	その他 64,000	500	<ul style="list-style-type: none"> ・三次市学力到達度検査(英語)における平均正答率の全国平均正答率比 +4.1ポイント(中1) +5.0ポイント(中2) ・小学校1・2年生の英語活動の実施率 100% 【イングリッシュキャンプ】 ・参加者 小学校 21人 中学校 38人 計 59人 ・参加者満足度 小学校 平均 99.9% 中学校 平均 100%
子ども夢・未来塾	128		128	<ul style="list-style-type: none"> 【子どもの体力充実事業】 ・参加者 小学校5年生 28人 小学校6年生 26人 計 54人 ・参加学校数 小学校 2校 ・走力アップ教室に参加しタイムが向上した児童の割合 83%
がんばる中学生の英語学習応援事業【英語検定料補助】	1,889		1,889	<ul style="list-style-type: none"> 補助人数 566人 中学校卒業時段階で英検 3級相当以上の割合 57.6%
学力ぐんぐん事業(ぐんぐん教員)	56,472		56,472	三次市学力到達度検査における市平均正答率の全国平均正答率比 +3.8ポイント
学力ぐんぐん事業(ぐんぐん学力)	8,934		8,934	三次市学力到達度検査における市平均正答率の全国平均正答率比 +3.8ポイント
みよし版わくわく体験活動推進事業	4,642	国県支出金 94	4,548	体験活動を通して成長したと思う児童の割合 93.7%
学校 ICT 整備事業	2,400		2,400	ICT 支援員 1人配置
部活動指導員配置事業	1,172	国県支出金 781	391	部活動指導員 3人配置
計	231,510	64,875	166,635	

イ 学校・家庭・地域の協働による教育力の向上と補完機能の強化

施策の概要

学校・家庭・地域が協働して地域の将来を担う子どもたちを大切に育てる小中一貫教育を推進しました。また、子どもたちの可能性を最大限に伸ばし、地域に誇りと愛着を持ちつつ、グローバル化する世界で活躍できる人材を育成しています。

さらに、学校・家庭・地域をつなぐパイプ役を担う社会教育委員が平成27年度に作成した「三次の子育て5か条」のリーフレットの配布やポスターの掲示、平成29年度からは「わが家の1か条」の募集を始め、家庭の教育力の向上を図る啓発活動を行いました。

また、平成30年度からは、身近な地域において保護者へ寄り添い見守るなどの支援を行う「家庭教育支援チーム」の設立に向けた取組として、先進地視察や活動団体などとの懇談会を行いました。

施策の成果

みよし教育フェスタを開催し、中学校区での取組の発信や「わが家の1か条」の表彰のほか、学校・家庭・地域が力を合わせて子どもを育てる教育の在り方について、幅広い世代の参加者とともに考えました。また、社会教育委員と連携して行った取組の成果として、甲奴地区に市内初の「家庭教育支援チーム」が発足しました。

事務事業の実施状況

■ みよし教育フェスタ（教育委員会）

令和元年11月24日、第6回みよし教育フェスタを三次市民ホールきりりで開催しました。

「夢人」をテーマに、社会教育委員会議による「三次の子育て5か条『わが家の1か条』」の表彰、小・中・高校生の学習発表、本市出身の詩人の方や世界で活躍されているピアニストによるトーク&コンサートを通して、学校・家庭・地域が力を合わせて取り組む「みよしの教育」について考えました。

■ 社会教育委員の活動（教育委員会）

平成27年度に作成した「三次の子育て5か条」のリーフレット配布を、小学校新1年生を対象に行いました。また、活用状況などの聞き取り調査を市内小中学校で行うとともに、「三次の子育て5か条」の継続的な活用促進策として平成30年度同様、「わが家の1か条」の募集を行い、924件の応募がありました。あわせて、「家庭教育支援チーム」の設立に向けた取組として、先進地視察や活動団体などとの懇談会を行い、啓発を目的とするリーフレットを作成しました。その成果として甲奴地区に三次初の「家庭教育支援チーム」が発足しました。

■ 家庭教育の充実（教育委員会）

地域での家庭教育の充実を図るため、学校や子育て支援センターなどで出前講座の機会を通じて「親の力」をまなび合う学習プログラムを活用し、親の役割、地域の役割についてグループ学習を行いました。計34回行い、延べ565人が参加しました。



子育て支援センターでの「親プロ」講座
「こんなときどうする」

■ 青少年育成講演会（教育委員会）

「生きる力」を育み、主体的に役割を果たすことのできる青少年を育成するため、市内中学生とその保護者を対象に青少年育成講演会「性と生を考える」を開催しました。講演会では、体と性についての正しい知識と、お互いを思いやりコミュニケーションをとることが、自分の命・体を守ることに繋がるということを学びました。



「性と生を考える」講演会 塩町中学校

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
みよし教育フェスタ	500		500	参加者 約 500 人
青少年育成講演会	60		60	中学生とその保護者を対象に講演会を実施 194 人
計	560		560	

■ （新）高校生地域づくり実践プロジェクト事業（地域振興部）

市内高等学校の生徒が取り組む地域振興又は地域貢献に関する活動などを支援し、郷土に愛着と誇りを持つ人材の育成を目的に、各高等学校の取組に対して補助を行いました。

この事業を活用し、三次青陵高等学校は、「足踏み式消毒液スタンド」を製作され、塩町中学校や4つの小学校へ設置されました。また、三次高等学校では「一人で みんなできてみんさい三次！～古くて新しい町 満喫めぐり」と題し、市内の施設や店舗を紹介する地域マップを作製され、市内の公共施設や店舗に配布されました。

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
高校生地域づくり実践プロジェクト事業	240		240	・三次青陵高校（足踏み式消毒液スタンド 7 台） ・三次高校（地域マップ 13,000 部）
計	240		240	

ウ 活力と信頼の学校づくり

施策の概要

子どもたちが安全・安心に学校で学び、生活するために、生徒指導体制の確立と教育相談の一層の充実を図り、不登校対策や問題行動に迅速、適切に対応しています。

また、学校施設整備事業に取り組み、ソフト面・ハード面ともに、より良い教育環境の整備に努め、保護者、地域から信頼される学校運営を行いました。

施策の成果

子どもたちの教育環境の整備などを図るため、通級学級や特別支援学級新設に係る教室整備をはじめとした学校施設整備事業、スクール便運行事業及び児童生徒安全確保緊急メール事業を行いました。

不登校傾向の児童生徒やいじめなどの早期発見・早期対応に向けて、学校、家庭、関係機関が連携し、不登校の解消やいじめ問題の解決に取り組みました。特に、小学校と中学校が連携を密にしたことで、中学校入学時に学校復帰できた生徒や、進路指導に取り組んだことで、進路希望をかなえることができた生徒もいました。

特色ある学校づくり創造事業を行い、それぞれの学校で創意工夫ある教育活動を推進することができました。

学校・家庭・地域が協働して小中一貫教育を推進し、中学校区全体で開かれた学校づくりを進め、児童生徒の自己肯定感の向上や基礎的・基本的な学習内容の定着を図りました。

事務事業の実施状況

■ 学校施設整備事業（教育委員会）

特別な配慮が必要な児童生徒が学習する通級学級及び特別支援学級の新設に係る教室整備をはじめ、多数の施設整備を進め、各学校の学習環境の整備を図ることができました。

■ スクール便運行事業（教育委員会）

学校統廃合に伴う遠距離通学の児童生徒（一部保育所含む。）に対して、バス・タクシーを含め27路線のスクール便を運行しました。

■ 児童生徒安全確保緊急メール事業（教育委員会）

市内の児童生徒の保護者に対し、不審者や災害などの発生情報を、電子メールを利用した一斉配信で速やかに伝達することにより、児童生徒の安全確保を図ることを目的に緊急メール事業を引き続き行いました。この事業において情報を伝達するのは、①不審者の発生により、児童生徒への被害のおそれがある場合、②天災（台風、暴風、洪水、大雨、大雪、地震など）による被害のおそれがある場合などです。

■ いじめ防止・不登校対策推進事業（教育委員会）

教職員を対象に、いじめの未然防止や不登校解消に向けた研修会を開催し、いじめを許さない風土づくりやいじめの早期発見・早期対応、中1ギャップの解消、不登校の未然防止に努めています。

また、総合質問紙調査を実施して、子どもたちの学級環境や社会性などを分析し、学級経営の充実や教師と子どもたちの信頼関係、子どもたち相互の好ましい人間関係を育てるために活用しました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

三次市子ども応援センターや適応指導教室においては、教育相談員や青少年指導相談員、スクールカウンセラーによる相談体制の充実を図り、学校や子ども、その保護者からの就学や不登校などの不安や悩みに対して相談・助言を行い、悩み解消に向けての取組を進めました。

さらに、市内小中学校に、三次市スクールサポーターを派遣し、学校内外を巡回したり、教職員へ生徒指導対応などの助言を行い、安全・安心な学校づくりを推進しています。

■ 特色ある学校づくり創造事業（教育委員会）

「活力と信頼のある学校づくり」の実現をめざして各学校が独自に創意工夫したオンリーワンの特色ある学校づくりを推進するため、学校独自の豊かな教育内容の創造及び教育活動を支援しました。

地域や児童生徒の実態を踏まえ、各学校の実践研究を進めるとともに、各中学校区の取組をまとめた小中一貫カレンダーや小中一貫だよりなどを作成し、広く情報発信しました。

また、「みよし教育ビジョン」を踏まえて策定した「三次市小中一貫教育基本構想『学びの風土づくりプラン』」に基づき、中学校区の小中学校が、めざす目標を共有する中で協働し、継続性・発展性をもって、児童生徒の育成を図る取組を進めました。

キャリア教育を軸とした、共通の教育課程「コアカリキュラム」と、各中学校区の特色を活かした「オリジナルカリキュラム」を、全ての中学校区で行い、児童生徒の成長につながる取組を進めました。



ブッポウソウの保護活動（作木小学校）



川地版イングリッシュキャンプ（川地中学校区）

■ 学校給食調理場整備事業（教育委員会）

「三次市学校給食調理場整備計画策定委員会」を設置し、委員会を計5回開催しました。平成30年3月に策定した「三次市学校給食調理場再編基本計画（案）」をもとに、各方面からの委員（学識経験者、保護者代表、農業関係者、学校及び調理場関係者）に、調理場整備について議論していただきました。

この「三次市学校給食調理場整備計画策定委員会」から提出された意見集約報告を尊重し検討を重ねた結果、令和2年3月、教育委員会として「三次市学校給食調理場整備計画に係る基本方針について」を取りまとめました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など	
		特 定 財 源	一般財源		
学校施設設備等整備事業 《下段：繰越明許分》	25,058			通級学級及び特別支援学級等空調機整備工事 小中学校施設設備等修繕工事ほか	
	23,887	国県支出金 起債	5,504 10,000	8,383	八次小学校特別支援教室トイレ改修工事 十日市中学校ほか7校ブロック塀撤去及びフェンス設置工事 みらさか学園体験広場等整備工事ほか
調理場施設設備等整備事業	5,992			5,992	十日市小学校屋根修繕工事 君田学校給食共同調理場真空冷却機真空ポンプ交換修理工事 君田学校給食共同調理場排水処理施設沈殿槽及び放流ポンプ槽蓋枠更新工事 吉舎学校給食共同調理場厨房ラインファン取替工事
スクール便運行事業	115,837	国県支出金	2,803	113,034	路線数 27 路線 利用者数 260 人
スクールバス更新事業	8,783	起債	8,600	183	三和小学校スクールバスの更新
児童生徒安全確保緊急メール事業	583			583	保護者の加入状況 101.7%
いじめ防止・不登校対策推進事業	15,901			15,901	「学校は楽しい」と、肯定的に答えている児童生徒の割合 85%以上 (令和元年度 87.6%)
特色ある学校づくり創造事業	8,355	その他	8,319	36	三次市学力到達度検査における市平均正答率の全国平均正答率比 +3.8ポイント
学校給食調理場整備事業	548			548	「三次市学校給食調理場整備計画基本方針」の決定
計	204,944		35,226	169,718	

(3) スポーツ・文化 ～学びたい気持ちを応援するまち～

ア “スポーツのまちみよし” の実現

施策の概要

「いきいき健康日本一のまち」の取組と連動した、市民誰もがスポーツを楽しめる環境づくり、スポーツ施設を活用した合宿や大会の誘致、また、指導者の育成を行う中で、競技力向上や交流人口の増加をめざしました。

施策の成果

住民自治組織や学校、企業、総合型地域スポーツクラブなどの関係団体と連携し、スポーツを通じた一体感の醸成と、ライフステージに応じたスポーツの実施、スポーツによる健康づくりへの意識の向上という効果が得られました。また、スポーツ推進委員による自主事業や研修も実施されるなど、指導者の資質向上をめざした取組も展開されました。大会やイベントも継続して開催され、市民のスポーツへの関心度や活力向上が図られました。スポーツ合宿の誘致についても、積極的な誘致活動を展開しました。

事務事業の実施状況

■ チャレンジデー2019 事業（地域振興部）

住民自治組織、企業、団体、各学校などと連携して、市民総参加型の事業として取り組みました。参加率は66.9%で平成30年度を4.1ポイント下回りましたが、2年連続で対戦相手に勝利しました。

住民自治組織や三次工業団地自治会など様々な団体に出向いての積極的なPRと参加依頼の強化に加え、当日は、市内全域で各団体による積極的な取組が行われました。大型商業施設での「お買い物ウォーキング」では、実施店舗を4店舗に拡大し、参加者数の増加を図りました。

また、チャレンジデー終了後も、出前講座や定期運動指導「楽トレ」を実施し、スポーツの習慣化に向けて、年間を通じて啓発活動を行いました。



お買い物ウォーキング（みんなで野菜体操）



開催式
（みよし運動公園陸上競技場）

■ 三次市スポーツ推進委員協議会活動（地域振興部）

三次市スポーツ推進委員の資質の向上を目的とした「研修部会」、役割や活動内容などの情報提供を行うための「広報部会」、ニュースポーツの普及促進や自主事業の開催を目的とした「事業部会」という3つの専門部を軸に活動を行い、市民を対象とした「体力測定会」の開催や「ラジオ体操研修」などを実施したほか、委員の活動PRとして会報誌を発行しました。



体力測定会

■ （新）夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会の開催（地域振興部）

ラジオ体操を通じた市民のスポーツ振興を目的に、みよし運動公園陸上競技場において、「夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会」を開催しました。

当日は早朝にもかかわらず、1,123人が参加しラジオ体操をして汗を流しました。

また、ラジオ体操の様子はNHK ラジオ第1で生放送され、全国に向けて本市のPRを行いました。



ラジオ体操の様子

■ 各種スポーツ大会の開催（地域振興部）

三次駅伝競走大会をはじめ、三次市体育協会やスポーツ少年団、市内各地域が行う市民の体力づくりの取組や市民が進んで参加できる多種多様なスポーツ大会を支援しました。このことにより、参加機会の拡大と市民スポーツ活動の振興につなげることができました。

京都で行われる全国大会への出場をかけた広島県高等学校駅伝競走大会では、男子の部45チーム、女子の部32チーム（男女あわせて約500人）が参加しました。

また、本市での開催は4年ぶりとなる、男子第61回・女子第33回中国高等学校駅伝競走大会が開催されました。中国5県から男子の部34チーム、女子の部33チーム（男女あわせて約400人）が参加し、みよし運動公園付設駅伝コースを疾走しました。

大会に向けた市民の皆さんの協力によるコースの整備や当日の沿道での声援など、秋の三次の一大イベントとして盛り上がりました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」

区 分	内 容	参加者数
スポーツ大会	名称 第66回三次駅伝競走大会 月日 令和元年10月20日	男子：28チーム 女子：13チーム 参加者：314人
	名称 男子70回・女子36回広島県高等学校駅伝競走大会 月日 令和元年11月3日	男子：45チーム 女子：32チーム
	名称 男子第61回・女子第33回中国高等学校駅伝競走大会 月日 令和元年11月17日	男子：34チーム 女子：33チーム
	名称 県民体育大会出場	166人
スポーツイベント	名称 三次市チャレンジデー2019 月日 令和元年5月29日	35,126人 参加率66.9%
スポーツ・文化芸術報奨	名称 世界大会・全国大会出場	世界大会 6人 全国大会 92人

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
三次市チャレンジデー2019	300		300	35,126人 参加率66.9%
第66回三次駅伝競走大会	1,000		1,000	男子：28チーム 女子：13チーム 参加者：314人
男子70回・女子36回広島県高等学校駅伝競走大会	2,400		2,400	男子：45チーム 女子：32チーム
男子第61回・女子第33回中国高等学校駅伝競走大会	2,400		2,400	男子：34チーム 女子：33チーム
スポーツ審判員等育成支援	35		35	資格取得支援 2団体
県民体育大会出場	252		252	166人
世界大会・全国大会出場	1,100		1,100	世界大会 6人 全国大会 92人
計	7,487		7,487	

■ (新) みよし運動公園野球場人工芝改修事業(地域振興部)

みよし運動公園野球場は、平成21年3月に完成して以降、プロ野球公式戦をはじめとした多くの利用があり、好評を得ていますが、建築から約10年が経過し人工芝の劣化が進行してきました。

特に内野人工芝については劣化が著しく、プレーに支障をきたす恐れもあるため、張替えを行い、快適にプレーできる環境を確保しました。



みよし運動公園野球場人工芝

■ 市営プール改修事業(地域振興部)

甲奴水泳プールは水槽塗装の剥離が著しく、漏水や衛生面で利用者の健康などへの影響も危惧されるため、防水シートの張替えを行い、快適で安全に利用できる環境を確保しました。

また、老朽化により機能が低下していた三和水泳プールの濾過装置を更新し、安全な水質を確保できる環境を整えました。

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
みよし運動公園野球場人工芝改修事業	79,518	起債 56,500 その他 20,000	3,018	内野人工芝の張替え
甲奴水泳プール改修工事	10,242	起債 10,200	42	防水シート張替え
三和水泳プール改修工事	6,797	起債 6,700	97	濾過装置更新
計	96,557	93,400	3,157	

イ スポーツを通じて子どもの夢を応援！

施策の概要

プロスポーツの試合の観戦やプロ選手を招いてのスポーツ教室の開催など、あこがれのトップアスリートと身近に接し、指導を受けることで、技術の向上だけでなく、スポーツに対する関心を高め、夢をもって前向きに進んでいく子どもを育てます。

施策の成果

プロ選手によるスポーツ教室では、技術指導だけでなく、トップアスリートと身近に接することで、スポーツに対する意識がより高揚しました。また、プロスポーツ観戦ツアーでは、ハイレベルの技術を目の当たりにする中で、子どもたちは感動を覚え、自分の夢を育むきっかけとなりました。

56年ぶりとなる本市でのオリンピック聖火リレーの実現に向けて、多くの人に関わってもらえるよう、オリンピックを招いての講演会などを実施したところ、子どもから高齢者まで幅広い世代の参加があり機運醸成につながりました。加えて、東京2020オリンピック聖火リレーエンブレムを使用した名刺の作成や懸垂幕の掲出など、計画的な広報活動により、新聞やテレビといった各種メディアに継続して取り上げていただき、「スポーツのまち三次」をPRすることができました。

事務事業の実施状況

■ 「トップアスリートによるスポーツ教室」の開催支援（地域振興部）

広島東洋カープやJTサンダース広島、広島ドラゴンフライズの選手・コーチによるスポーツ教室のほか、アンジュヴィオレ広島のコーチによる年間を通しての女子サッカースクールの開催を支援し、子どもたちがより高度な技術を修得できる機会を設けました。スポーツ少年団や中学生の子どもたちがトップアスリートから指導を受け、競技力の向上と意識の高揚が図られました。



トップアスリートによるスポーツ教室

■ 2020年東京オリンピック・パラリンピック事前合宿支援事業（地域振興部）

<事前合宿>

令和元年8月12日から9月2日の期間でメキシコ陸上選手団29人を受け入れ、強化合宿に対する支援を実施しました。合宿期間中には、鞆飼、三次もののけミュージアムなどの文化・芸術の鑑賞のほか、市内中学校の学校訪問、陸上教室、フォークダンスなどの交流を実施し、子どもたちをはじめとする市民と選手団の交流の機会を提供しました。



メキシコ陸上選手団



学校訪問・交流（三和中学校）



陸上教室

＜機運醸成の取組＞

広島県 JICA の協力により、令和元年8月2日から9月1日の期間で、市内商業施設内においてメキシコ陸上選手団事前合宿受入記念「メキシコ展」を開催し、メキシコの文化や暮らしを紹介する写真や民族衣装などを展示しました。



メキシコ展

＜パラリンピックへの取組＞

2020年東京パラリンピックへの出場をめざす選手への支援と人材活用を通して、障害者スポーツの理解と普及を進めていくことを目的に、白砂匠庸選手（陸上競技）による陸上教室を、市内小中学校（4校、4回、計306人参加）で実施しました。



陸上教室（神杉小学校）

■（新）東京2020オリンピック聖火リレー機運醸成事業（経営企画部）

＜北島康介氏講演会・オリンピック関連展示＞

東京2020オリンピック聖火リレーの実施に向けた機運醸成を図るため、令和元年11月2日にオリンピック競泳金メダリストの北島康介さんを招いて講演会を開催しました。あわせて本市出身で、1964年東京オリンピックにおいて最終聖火ランナーを務められた坂井義則さんの軌跡展を開催しました。また、オリンピック聖火リレープレゼンティングパートナーであるコカ・コーラ社の協力を得て、東京2020オリンピック聖火リレータッチなど様々なオリンピックレガシーに触れていただく展示なども行い、市内外から延べ800人の来場があり、聖火リレーに向け機運を盛り上げることができました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」



北島康介氏講演会の様子



坂井義則氏の軌跡展の様子



聖火リレートーチなどの展示の様子

＜各種媒体などを活用した取組＞

- ・ 聖火メモリアル自動販売機及び JOC 支援自動販売機の設置

多くの市民の方にオリンピック聖火リレーや東京 2020 大会に興味・関心を持っていただくことを目的に、広島県内の聖火リレー出発地である三次もののけミュージアムやみよし運動公園など計7ヶ所に聖火メモリアル自動販売機などを設置しました。

JOC 支援自動販売機の収益の一部は、JOC を通じて各種スポーツ団体へ寄附されることとなっており、令和2年3月末までの本市の寄附額は 11 万 928 円となっています。



聖火メモリアル自動販売機
(みよし運動公園)



JOC 支援自動販売機
(三次市福祉保健センター)

- ・懸垂幕の掲出及びPR用のぼりの制作，SNSの活用

本市でのオリンピック聖火リレーの実施3ヶ月前となる予定であった令和2年2月18日には、市役所庁舎にPR用の懸垂幕を掲げました。また、聖火リレー実施50日前の令和2年3月30日から、のぼりを活用したPRを展開していく予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、聖火リレーが延期となったため、掲出を見送りました。いずれも、新たな聖火リレーの日程などが公表された後に活用していく予定です。

また、幅広い層へ興味・関心を持ってもらうため、庁内組織「三次市オリンピック・パラリンピック推進本部」による公式Facebookを立ち上げ、SNSを活用した広報に取り組みました。



懸垂幕掲出の様子



PR用のぼり



公式Facebookページ

■ 「三次市民プロスポーツ応援事業」の開催支援（地域振興部）

市民を対象とした、サンフレッチェ広島及びJTサンダース広島の応援隊バスツアーを行いました。サンフレッチェ広島への応援116人、JTサンダース広島への応援119人が、エディオンスタジアム広島及び広島県立総合体育館へ応援隊として参加しました。多くの子どもたちが参加し、トップアスリートの華麗な技に触れ、スポーツに対する夢を膨らませました。

また、みよし運動公園陸上競技場において、女子サッカーリーグ公式戦を開催し、575人のアンジュヴィオレ広島応援隊が観戦に訪れました。



女子サッカー公式戦開催
(みよし運動公園陸上競技場)



三次市民サンフレッチェ広島応援隊
(エディオンスタジアム広島)



三次市民 JT サンダース広島応援隊
(広島県立総合体育館)

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
2020年東京オリンピック・パラリンピック事前合宿支援事業	16,944		16,944	陸上選手団強化合宿 22日間 29人
東京2020オリンピック聖火リレー機運醸成事業	1,556		1,556	機運醸成イベント 参加者 延800人 懸垂幕掲出1回
JTサンダース広島交流事業バレーボール教室	102	その他 102		参加者 53人
君田夢のバレーボール教室	200	その他 200		参加者 181人
三次市野球教室 in きみた	280	その他 280		参加者 約180人
三次地区女子サッカープロジェクト	532	その他 532		参加者 延210人
広島ドラゴンフライズによるバスケットボールクリニック	100	その他 100		参加者 48人
三次市民アンジュヴィオレ広島応援隊	234		234	観客数 575人
三次市民サンフレッチェ広島応援隊バスツアー	641		641	参加者 116人
三次市民JTサンダース広島応援隊バスツアー	607		607	参加者 119人
計	21,196	1,214	19,982	

ウ 三次の文化・芸術の発展継承と創造

施策の概要

文化の創造と発信の拠点である三次市民ホールきりりにおいて、市内の学校や文化団体の発表会をはじめ、著名なアーティストによる優れた舞台芸術に至るまで、様々なジャンルの公演を行いました。子ども文化芸術ふれあい事業では、子どもたちに質の高い本物の芸術を鑑賞・体験できる機会を提供しました。

また、奥田元宋・小由女美術館を核とし、はらみちを美術館、美術館あーとあい・きさ及び三良坂平和美術館の4館で美術館事業を展開しました。インバウンド需要が高まる中、国内外からの来館者の受入れに積極的に取り組みました。

三次の子どもたちの健やかで心豊かな成長を願う真田一幸さんの寄附を財源として、創設した「真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業」では、子どもを対象としたスポーツ・文化団体に対する補助金の交付や、スポーツや文化を通して子どもたちの活動を支援するために用具の購入を行いました。

施策の成果

三次市民ホールにおける自主事業は、市民の意見を反映させるため、市民代表者、指定管理者、専門的ノウハウを有する者及び行政関係者の4者による「三次市民ホール事業運営委員会」が行っています。事業のジャンルや演目などは、専門的ノウハウを有する市民ホール企画支援業務受託者からの企画提案や、同者からのアドバイスを受けて決定しました。また、市民ホールのボランティアサポーター「NPO 法人きりり倶楽部」は、市民参加の立場から自主事業を企画・運営しました。子ども文化芸術ふれあい事業では、本市に古くから伝わる伝統文化・芸能を保存し未来へ継承していくための発表の場を提供するため、みよし伝統文化・芸能フェスティバルなどを行いました。

奥田元宋・小由女美術館では、常設展に加え、年間6回の企画展を開催しました。夏休みには子ども向け企画展の開催を、広島県立歴史民俗資料館及び三次商工会議所と連携して行いました。

企画展の関連事業として、大人向け・子ども向けのワークショップやイベントを行い、学校連携・地域連携を推進しました。市民が育てる美術館として、サポートメンバーの募集やボランティアの育成を引き続き行いました。

文化施設において市民に質の高い事業を継続的に提供することにより、市民が芸術文化への関心を深め、サポートボランティアとして積極的に活動を行うことができました。

事務事業の実施状況

■ 美術館の運営とネットワーク事業（教育委員会）

美術館の運営は、4館とも指定管理者制度を導入し、効率的な管理・運営を行いました。各館の個性を活かした常設展や魅力的な企画展、ロビーコンサートなどのイベントが行われました。

美術館の入館者は、奥田元宋・小由女美術館が51,097人、はらみちを美術館は8,410人、美術館あーとあい・きさは4,743人、三良坂平和美術館は11,760人でした。

■ 奥田元宋・小由女美術館常設展示室リニューアル事業（教育委員会）

奥田元宋氏・小由女氏の作品の魅力をも十分に堪能できる展示空間を創出するため、元宋氏の画室遺品の展示や、常設展示室の改修を行いました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
奥田元宋・小由女美術館常設展示室リニューアル事業	30,564	起債 24,200	6,364	常設展示室 小由女展示室 1・2 274 m ² 休憩室コーナー 44.5 m ²
計	30,564	24,200	6,364	

■ 魅力あるみよしスポーツ・文化振興事業の展開（教育委員会）

スポーツ・文化みよし夢基金の運用益を財源の核として、スポーツ・文化の新たな事業を展開するため、次の事業に対しスポーツ・文化振興事業補助金を交付しました。

<スポーツ・文化振興事業>

(単位：千円)

事業名	主催者	日程・会場	事業内容	事業費	内補助金額
三次市花園親善 ゲートボール大会	三次市花園ゲート ボール協会	平成31年4月～令和元年11月 (第3土曜日※8月除く) 十日市親水公園	三次市、市外チーム との親睦、技術の研 鑽、地域交流	156	35
夢に向かって！ ふるさと まち 里山と都市を繋 ぐ集い	創志塾	令和元年8月17日(土) みよしまちづくりセン ター	ふるさと出身の先 輩と、ふるさとで夢 に挑戦する小中高 生・若者の交流	491	200
ラインホルト・ フリードリヒ、 竹沢絵里子トラ ンペットとピア ノのタベ	ラインホルト・フ リードリヒ、竹沢 絵里子トランペッ トとピアノのタベ 実行委員会	令和元年11月28日(木) 三次市民ホールきりり	コンサートと地元 吹奏楽部学生に対 しての公開レッス ン	660	200
計	3件			1,307	435

■ 真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業（教育委員会）

子どもを対象としたスポーツ・文化の振興及び育成を図るため、74団体に真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業補助金を交付しました。

また、子ども神楽団などの子ども伝統文化団体、スポーツクラブにスポーツ・文化活動で使用される用具を購入しました。

<真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業補助金>

(単位：千円)

団体種別	補助対象活動	件数(件)	補助金額
スポーツ系	団体運営	58	4,751
	大会等開催	9	892
文化系	団体運営	6	551
	大会等開催	1	100
計		74	6,294

＜真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業用具整備＞

(単位：千円)

用具種別	品名等	件数(件)	購入金額
文化系	吹奏楽備品(クラリネット, ティンパニ, チューバ等)	6	1,895
計		6	1,895

■ 三次市民ホール自主事業支援事業(教育委員会)

三次市合併15周年記念・市民ホール5周年記念事業「池辺晋一郎&N響団友オーケストラ」コンサートや「倭-YAMATO 日本ツアー2019 三次公演」, 「陸上自衛隊中部方面音楽隊コンサート」をはじめ, 来場者が夏季に比べて少ない冬季には「第3回三次市神楽共演大会」「第3回三次名人会(林家三平ほか)」など, 多様なジャンルの舞台公演を開催し, 市内外から大勢の観客を集めました。また, 小中学生が授業の中で, プロの芸術家の音楽やダンスに触れたり体験できる「アウトリーチ事業」を実施しました。令和元年度は, 初の試みとして高校生を対象とした演劇のワークショップや乳幼児とその保護者がプロの芸術作品に触れることができる「アートスタート事業」など, 次世代を担う子どもたちが良質の文化芸術に触れ, 豊かな創造力や感性を育むことを目的とする事業に取り組みました。さらに, 「みよしKIRIRI 児童合唱団」や「人形劇団きりり」への活動支援など, 市民参加・育成型の事業も行いました。入館者数は70,522人(うち大ホールは35,121人)でした。また, NPO法人きりり倶楽部主催の「ティーブレイクコンサート(計3回)」, 「クラシック楽楽ゼミナール(全4回)」のほか, 「きりり de 夏まつり」を実施し, 地域の子どもたちを中心に多くの市民の参加がありました。



三次市合併15周年記念・市民ホール5周年記念事業
池辺晋一郎&N響団友オーケストラ



倭-YAMATO 日本ツアー2019
三次公演

第1節 まちづくりの主役である「ひとつくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
三次市民ホール 自主事業支援事 業	28,013	その他 19,893	8,120	<ul style="list-style-type: none"> ・ザ・ブラザース・フォアありがとうジ ャパンツアー2019 377人 ・昭和のうたコンサート公演 377人 ・夏の雲は忘れない ヒロシマ・ナガサ キ 1945年 327人 ・陸上自衛隊中部方面音楽隊コンサート 876人 ・ブーク人形劇場 海外特別公演 「バビロン」 53人 ・サンクトペテルブルク国立舞台サーカ ス公演 2回 715人 ・みよし KIRIRI 児童合唱団育成事業 (第4回定期演奏会) 206人 ・人形のまちみよしシリーズ とらまる 人形劇団「2019新作」 98人 ・倭-YAMATO 日本ツアー2019 三次公演 632人 ・夏休み!きりり探検ツアー 55人 ・「きりり倶楽部」育成事業 (テーブルイクコンサート) 3回 278人 ・エリザベト音楽大学との芸術交流 4回 678人 ・アウトリーチ事業(音楽) 市内小学校3校, 中学校1校 コンサート 371人 ・アウトリーチ事業(ダンス) 市内小学校3校 ワークショップ 90人 ・アートスタート事業 2回 71人 ・きりり de 夏まつり 延約600人 ・池辺晋一郎&N 響団友オーケストラ 517人 ・第3回三次市神楽共演大会 628人 ・第3回三次名人会 524人 ・アウトリーチ事業(Q学) 180人
計	28,013	19,893	8,120	

■ 子ども文化芸術ふれあい事業（教育委員会）

平成 28 年度に「スポーツ・文化みよし夢基金」を財源に本事業を創設し、「小・中学生芸術鑑賞事業」として、広島交響楽団オーケストラ音楽教室、「三次きらきらコンサート（三次市吹奏楽演奏会）」、「第 13 回みよし伝統文化・芸能フェスティバル」などを開催し、市内の小中学生を中心に芸術に親しむ機会を提供しました。

また、三次子ども市議会で提案のあった「三次にも映画館をつくってほしい」という声に応じて平成 30 年度に引き続き、子ども映画上映会を開催し、「名探偵コナン 紺青のフィスト」と「ペット2」を各2回上映しました。

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
子ども文化芸術 ふれあい事業	6,639	その他 5,672	967	○小・中学生芸術鑑賞事業 2,346 人 ・広島交響楽団オーケストラ音楽教室 1,637 人 ・市内美術館等の見学鑑賞 709 人 ○三次きらきらコンサート （三次市吹奏楽演奏会） 約 460 人 ○第 13 回みよし伝統文化・芸能フェ スティバル 約 800 人 ○子ども映画上映会 ・「名探偵コナン 紺青のフィスト」 679 人 ・「ペット2」 352 人
計	6,639	5,672	967	

エ 歴史・伝統・文化の継承と発展

施策の概要

文化財は、地域の歴史や文化などを正しく理解し、これからのまちづくりを考えるための基礎となる貴重なものです。その文化財を守り、伝えることで、地域に誇りをもって生活できるようになることをめざし、事業に取り組みました。

施策の成果

指定文化財の保護のため、史跡寺町廃寺跡整備事業として発掘調査を行いました。新しい情報や成果を得るとともに、小学生の学習や生涯学習の場として、地域の歴史や文化に触れる機会を提供しました。また、文化財について広く周知するために小冊子を作成し、市内の小学校を中心に配布しました。

辻村寿三郎人形館展示支援事業では、企画展を開催し、県内外から多くの来館があり、本市ゆかりの作家の芸術を発信しました。

事務事業の実施状況

■ 文化財調査事業（教育委員会）

埋蔵文化財の保護と開発の調整を図るため、道路の整備や土地の造成など開発事業の際には、文化財の取扱いについての協議や発掘調査などを行い、保存や記録を行いました。発掘調査が1件あり、また、開発工事などに係る試掘調査を3件行いました。

■ 文化財保護事業（教育委員会）

文化財所在地の草刈りなど、環境を整備することで、文化財を後世に残し、知的観光資源としての活用を図りました。より良い方法で文化財を残していくために、地域の協力を得ながら、国や県の機関と情報交換を行い、検討しました。

また、文化財保護委員を中心に、市内の指定文化財の現状確認や調査を行いました。

■ 文化財副読本の作成事業（教育委員会）

文化財に関する学習啓発のため、副読本として利用できる小冊子「三次市の文化財」を作成しました。シリーズ5冊目として、重要文化財のうち広島県矢谷古墳出土品などについてわかりやすくまとめ、市内小中学校に配布しました。

■ 博物館・資料館の活用事業（教育委員会）

文化財などを展示・収蔵するために、三次市歴史民俗資料館などの施設の改装や修繕を行いました。分散している作木町内の文化財（民具など）を適切に保管・展示するため、関係資料を下地区自治交流センター「めんがめ」に集約し、展示品の仕分けや展示棚などの整備を行い、令和2年2月21日から公開を始めました。展示品を「しごと」（生産に関する民具）、「くらし」（衣食住に関する民具）、「つながり」（社会生活や娯楽に関する民具）と3部屋に分類し、各民具に説明文を記しました。あわせて、作木町の民謡や映像も紹介し、分かり易い展示をめざしました。



民具の展示の様子（めんがめ）

■ 三次まちなかギャラリー事業（教育委員会）

三次本通商店街に、来訪者が三次人形など三次地区の歴史・文化に触れる、町歩きのしかけとして、「まちなかギャラリー」を整備しており、これまで整備してきた三次地域交流館や展示棚4ヶ所に加え、令和元年度は1ヶ所を新たに設置し、三次町に伝わる稲生物怪録に関する資料や三次人形などを展示しました。

■ 史跡寺町廃寺跡整備事業（教育委員会）

文化庁や広島県教育委員会文化財課との協議を行いながら、第6次・第7次発掘調査を実施しました。

重要な建物跡である金堂や塔の調査を行い、初めて金堂の南階段を確認するなど、新しい情報や成果を得ることができました。

また、調査中に、現地見学会を開催したほか、地元への見学会や小学生の体験学習を行うなど、多くの方々に本市の歴史・文化を現地で体感していただきました。



第7次発掘調査現地見学会

■ 辻村寿三郎人形展示支援事業（教育委員会）

辻村寿三郎人形館の運営をする一般社団法人 寿三郎みよしに対して補助金を交付し、企画展として「スサノオ」「瀧夜叉姫」「阿久利姫生誕 350年記念」が開催されました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとつくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
作木郷土資料館 整備事業	2,634		2,634	展示品数 500点
三次まちなかギ ャラリー事業	1,375	国県支出金 687	688	三次地域交流館・既設展示棚4ヶ所での 展示 新規設置1ヶ所
史跡寺町廃寺跡 整備事業	10,184	国県支出金 5,092	5,092	発掘調査の実施、関係機関協議 第6次発掘調査現地見学会 165人 第7次発掘調査現地見学会 174人
辻村寿三郎人形 展示支援事業	8,000		8,000	スサノオ 449人 瀧夜叉姫 4,303人 阿久利姫生誕350年記念 2,899人
計	22,193	5,779	16,414	

オ 学ぶ気持ちを応援する生涯学習の推進

施策の概要

受講生自身が自己実現できる講座の開催やまちづくり・地域づくりに必要な人材の発掘と育成，さらには成果を地域に還元できるよう，様々な学習機会を設けました。また，子どもたちに三次の魅力を認識してもらうため，三次の文化を体験できる講座を企画しました。図書館活動としては，ころぶっくる号（移動図書館車）の運行や，ボランティアによる「お話し会」の開催など，気軽に立ち寄れる情報拠点，読書施設，知的財産の保存活用施設としての図書館をめざし，利用者の利便性の向上に努めました。

施策の成果

市民が三次の再発見やスキルアップを図り，自分らしく豊かな生活を送るための術を学ぶ場として，令和元年度も引き続き，暮らし文化セミナーを開催しました。また，家族で三次の文化である「鶺鴒」を体験できるよう，鶺鴒体験講座を実施しました。

また，図書館では適正な蔵書管理とレファレンスサービス（調べもの相談）の向上を図り，市民の文化生活に関する情報の受発信の場としての活用も拡大しています。また，ボランティアによるお話し会や，出前講座も積極的に開講しました。11回目を迎えた「本のメッセージコンクール」は本に親しむことのできる事業として定着しました。さらに寄贈されたSPレコードを活用したコンサートを開催しました。今後もより活用しやすい施設をめざして取り組んでいきます。

事務事業の実施状況

■ 民間活力を活用した講座の開講（教育委員会）

幅広い年齢層を対象に，市民ニーズに応えた様々な分野にわたる講座を開講しました。個人の可能性を広げる連続講座「暮らし文化セミナー」（全6回）を開催し，延べ362人が受講しました。

■ 図書館活動（教育委員会）

蔵書については，各館の容量や市民ニーズを勘案し充実を図りました。また，利用促進のため，近隣市町との広域利用を行っています。ころぶっくる号の運行，全館での「お話し会」の定期開催支援や「おたのしみ教室」を開催しました。

また，保育所・小学校への定期配達による貸出や小中学校への職員派遣など，子どもの読書活動への支援を行いました。加えて，年間を通じて各館で企画した特集展示を行いました。読書通帳100冊達成表彰，受験応援しおりの配布や読書に関するクイズなどの親しみやすい取組を通して，気軽に立ち寄れる図書館をめざしています。

三次市重要文化財である「往来本」について学ぶ取組として，往来物研究家である小泉吉永氏を講師に迎え，インターネットを利用した遠隔講座「おとなの寺小屋」を開講しました。

■ 生涯学習センターの改修（教育委員会）

三次市生涯学習センターを安全で利用しやすい施設にするため，耐震改修のほか，空調機器整備，トイレ改修，外壁改修などのリニューアル改修を行い，生涯学習センターとしての機能の充実を図りました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

<図書資料>

図書館名	蔵書数(冊・点)	
	平成30年度末	令和元年度末
三次市立図書館	156,943	156,561
三次市立君田図書館	15,323	15,403
三次市立布野図書館	14,536	14,775
三次市立作木図書館	19,564	19,356
三次市立吉舎図書館	17,327	17,110
三次市立三良坂図書館	18,312	18,092
三次市立三和図書館	34,765	34,685
三次市立甲奴図書館	29,083	29,215
合計	305,853	305,197

<図書館利用状況>

図書館名	個人登録数(人)		貸出冊数(冊・点)		開館日(日)	来館者数(人)
	平成30年度末	令和元年度末	平成30年度末	令和元年度末	平成30年度末	令和元年度末
三次市立図書館	30,786	34,287	219,874	221,505	326	152,183
三次市立君田図書館			18,122	16,204	317	5,305
三次市立布野図書館			22,638	23,902	317	5,108
三次市立作木図書館			15,763	15,159	317	5,016
三次市立吉舎図書館			22,678	21,179	317	6,713
三次市立三良坂図書館			31,505	31,123	317	7,675
三次市立三和図書館			20,695	21,175	317	5,902
三次市立甲奴図書館			18,986	20,926	317	3,411
合計	30,786	34,287	370,261	371,173	-	191,313

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
生涯学習事業	4,000		4,000	文化振興・生涯学習事業(業務委託) 三次歴史塾 74人 ジュニアチャレンジ 40人 輝くあなた 362人
図書館事業	100,547	その他 1,000	99,547	自主事業参加者(延人数) 講演会など 1,100人 本のメッセージカードコンクール 1,316人 おはなし会 1,218人 出前講座 1,447人
三次市生涯学習 センター耐震及 び改修工事 《繰越明許分》	53,159	起債 53,100	59	RC造4階建 2,098㎡ 総事業費 277,623千円
計	157,706	54,100	103,606	

カ 国際交流の推進

施策の概要

海外の姉妹・友好都市などとの国際友好親善及び国際協力推進並びに国際的な人材の育成及び市内在住外国人への支援を図るため、一般財団法人三次国際交流協会の運営を支援するとともに、連携し各種事業を推進しました。

施策の成果

一般財団法人三次国際交流協会と連携し、市内在住外国人支援を含めた国際交流事業全般について、取組を推進することができました。

また、友好・交流都市との訪問・受入れなどを行い交流の絆を深めました。

事務事業の実施状況

■ 国際交流推進事業（地域振興部）

一般財団法人三次国際交流協会と連携し、在住外国人が暮らしやすい環境づくりを推進するため、市内及び近郊の外国人居住者を対象とした生活相談を、通年で週に1回開催しました。言葉や生活習慣の違いから生じる各種相談が年間35件ありました。

また、「受入事業・派遣事業の支援」として、各国国際交流団体主催の国際交流事業に対して助成金を交付しました。友好都市からの訪問団を受け入れ、また友好・交流都市を訪問し、子どもたちが、ホームステイや学校間の交流を通して文化、習慣などの違いを経験することで、国際感覚豊かな人材の育成を図りました。

スピーチ交流会では、市内の中学生・高校生23人が、決められたテーマをもとに英語でスピーチを行い、英語への関心と英語力の向上を図りました。



2019スピーチ交流会



アメリカス市訪問団



日本・カナダ教育国際交流事業派遣者結団式

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

また、新型コロナウイルス感染症の拡大が深刻化する中、2月に友好都市提携をしている中国・四川省雅安市雨城区からの支援要請を受け、本市から、医療用マスクや防護服などの支援物資を寄贈し、3月には、雅安市雨城区からマスクの寄贈を受けました。両市区の永年にわたる交流の積み重ねが、防護対策用品の相互支援につながり、両市区の「友好の絆」を確認しました。

主催団体	事業名	事業概要
NPO 法人こうぬシミー・カーターシビックセンター国際交流協会	第28次アメリカス市訪問団派遣事業 (令和元年8月16日～23日)	派遣：20人(うち子ども15人) 表敬訪問、ホームステイ、学校間交流など
	アメリカス市訪問団受入事業 (令和元年6月2日～10日)	受入：16人(うち子ども12人) 表敬訪問、ホームステイ、学校間交流など
三次インド交流協会	インド・ハイデラバード市との交流推進事業 (令和元年7月1日～2日)	受入：4人 表敬訪問、学校間交流に向けた協議など
日加教育国際交流協会	日本・カナダ教育国際交流事業(訪問団派遣) (令和元年10月29日～11月4日)	派遣：18人(うち子ども15人) ホームステイ、学校間交流など

(単位：千円)

区分	事業費	財源内訳		成果指標など
		特定財源	一般財源	
国際交流推進事業	5,446		5,446	外国人生活相談 35件 海外派遣(子ども) 30人 スピーチ交流会参加者 23人 雅安市への寄贈 マスク 3,000枚 防護服等 1,000セット 雅安市からの寄贈 マスク 63,200枚
計	5,446		5,446	

(4) 男女共同参画・平和・人権 ～みんなが協力してつくる、人にやさしく住みよいまち～

ア 男女がともに活躍できる環境の充実

施策の概要

三次市男女共同参画基本計画（第3次）に基づき、男女共同参画社会の実現に向けて、市民を対象とした啓発事業の実施と女性保護対策の充実などに取り組みました。あわせて、女性の活躍推進のため、講演会や啓発事業を行い、子育てしながら働きやすい環境づくりへ向けた取組を行いました。

施策の成果

男女共同参画推進講演会を実施し、ワーク・ライフ・バランスを推進するため、家庭と仕事での協力や分担の大切さ、お互いが飛躍していくためのポイントなど例をあげて紹介し、男性の家事参画の理解の浸透を図りました。

事務事業の実施状況

■ 男女共同参画推進事業（地域振興部）

男女共同参画基本計画（第3次）に基づき、男女共同参画の理解の浸透と女性活躍の機運醸成を図りました。基本計画の内容や女性活躍推進の取組について、広報紙をはじめ、市ホームページ、チラシなどにより、啓発に取り組みました。

三次市女性活躍推進プラットフォーム「アシスタ lab.」の1周年記念イベントにおいて、男女共同参画推進講演会を実施し、夫婦で店舗経営をされておられる1組の夫婦を講師に迎え、家庭や仕事でお互いが協力し合い、飛躍していくためにしていることなどを話してもらい、ワーク・ライフ・バランスなどについて、理解を深める取組を行いました。

あわせて、三次市女性連合会の活動を支援し、講演会や研修会を通して事業の発展に努めました。

また、男女共同参画審議会では、男女共同参画や女性の活躍推進に係る各種施策の実施状況を確認するとともに、次期計画に向けたアンケート調査への意見をいただき、今後の取組を進める上での課題などについて、議論していただきました。



アシスタ lab.1周年記念イベント
男女共同参画推進講演会

■ (新) 男女共同参画基本計画(第4次)策定アンケート調査事業(地域振興部)

「三次市男女共同参画基本計画(第3次)」の評価を行うとともに、次期計画である「三次市男女共同参画基本計画(第4次)」の策定に向けた基礎資料とするため、本市の男女共同参画・女性の活躍推進の現状やニーズを把握することを目的として、アンケート調査を実施し、課題の整理を行いました。また、県立広島大学と連携し、市内の事業所へ聞き取り調査を実施し、男女共同参画への実態を取りまとめました。

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
男女共同参画推進事業	2,643		2,643	男女共同参画審議会 1回開催 男女共同参画講演会 参加者 約100人 三次市女性連合会男女共同参画講演会 参加者 約300人
男女共同参画基本計画(第4次)策定アンケート調査事業	2,134		2,134	男女共同参画アンケート調査 発送数 市民 2,000人 発送数 事業所 324件 アンケート回収率 市民 26.7% 事業所 44.8%
計	4,777		4,777	

イ 平和を願う思いの継承と市民意識の高揚

施策の概要

被爆者や戦争体験者の高齢化に伴い、原爆と戦争の記憶が風化していくことが懸念されています。そうした中で、戦争体験の継承と平和の尊さの次世代への継承、そして、恒久平和の願いを市民へ呼びかける事業を行いました。

本市では、市民が身近なことから平和に関心を持ち、考えられるよう、広島東洋カープの協力を得て、「平和の灯ろうコンテスト」にカープ球団選手から平和メッセージをいただき、受賞作品とともに巡回展示を行いました。

施策の成果

戦争の悲惨さと、原爆の非人道性を語り継ぎ、恒久平和の願いを次世代に伝えるため、「平和のつどい」、「平和の灯ろうコンテスト」、「平和折り鶴募集」などの平和祈念事業を実施し、多くの市民が取り組むことで、恒久平和の願いの浸透を図ることができました。

また、核実験への抗議活動や、米軍の低空飛行訓練に対する中止要請は、世界恒久平和を願う市民メッセージとして発信しています。平和を願う思いが継承されるよう、啓発活動を通じて、市民一人ひとりの意識の高揚に引き続き取り組みます。

事務事業の実施状況

■ 平和推進事業（地域振興部）

広島平和記念公園に手向けられた折り鶴を活用する「折り鶴に託された思いを昇華させる取組」として、解体折り鶴を利用した「平和の灯ろうコンテスト」を行い、市内の老人福祉施設や小中学校の児童生徒などから522点の応募がありました。広島東洋カープの選手からは、灯ろう用紙に平和メッセージをいただき、受賞作品とともに市内巡回展示を行いました。

また、本市も加盟している「平和首長会議」などと連携を取りながら、情報の収集や交換を行い、核兵器廃絶を訴えました。

平和への思いを込めた折り鶴の募集には、市民から53,179羽が寄せられ、平和への願いとともに広島平和記念公園の「原爆の子の像」に手向けました。

広島・長崎に原爆が投下された8月6日、9日には、市民に原爆犠牲者の追悼の黙とうを呼びかけ、庁舎をはじめとした公共施設において半旗の掲揚を行いました。

■ 平和祈念事業の開催（地域振興部、三良坂支所）

市民一人ひとりが平和について考え、次世代にその尊さを伝える契機の一つとして「平和のつどい MIYOSHI 2019」を三良坂平和公園で開催しました。市内中学生による「三次市平和非核都市宣言」の朗読、「平和の灯ろうコンテスト」の表彰を行いました。平和の灯ろう約1,000基が点灯される中で、市内コーラスグループや「ESTACION（エスタシオン）」による平和コンサートを行い、参加者全員で平和への祈りを捧げるとともに、平和のメッセージを発信しました。



平和のつどい MIYOSHI 2019

■ 関連事業への取組（地域振興部）

市民から寄せられた米軍機低空飛行訓練目撃情報の件数は、延べ17日、41件でした。米軍岩国基地への空母艦載機移転の影響などにより、目撃件数は増加傾向であり、今後も注視していく必要があります。「米軍機による低空飛行の騒音被害に関する関係自治体の協議会」（廿日市市、北広島町、安芸太田町、三次市）において、引き続き情報共有を図り、連携した取組を行いました。

北方領土返還運動については、北方領土の日にあわせて関係団体とともに市内のショッピングセンター2ヶ所で街頭啓発活動を行いました。

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
平和推進事業	85		85	平和の灯ろうコンテスト 応募数 522点 受賞作品巡回展示 12会場 折り鶴募集 53,179羽
平和祈念事業	1,291		1,291	平和のつどい MIYOSHI2019 （8月3日 / 三良坂平和公園） 参加者 約500人
計	1,376		1,376	

ウ 「みんな違う・みんな同じ」の人権尊重の普及啓発

施策の概要

広島法務局三次支局，三次人権擁護委員協議会などと連携を図りながら，互いの違いを共に認め合い，支え合う，「みんな違う・みんな同じ」の人権尊重の普及啓発を行い，人権尊重のまちづくりを進めました。

施策の成果

人権週間にあわせた啓発活動や，人権講演会を通じて，「心の扉」を開いていくことを学び，人間が支え合って生きていることを実感していただくことができました。

小中学生による作文や書などの作品制作も学校単位で取組が行われ，展示や発表の場を提供することで，本人や保護者などに自覚が芽生えています。人権尊重の普及に向けて，今後も地道な啓発活動を行います。

事務事業の実施状況

■ 「ひと・かがやきフェスタ 2019」の開催（地域振興部）

人権週間にあわせ，12月8日に，三次人権擁護委員協議会と連携して，作文発表や講演会を中心とした「ひと・かがやきフェスタ 2019」を開催しました。あわせて，市内の小中学生が人権への思いを表現した「人権ハート絵かがやきメッセージ」の展示，全国中学校人権作文コンテスト広島県大会三次地区大会における入賞作品の朗読，人権擁護委員による啓発劇，人権書道展，人権啓発パネル展など幅広い内容で行いました。

人権講演会では，元オリンピックランナーの松野明美さんを講師に迎え，「人生はいちばん じゃなくてもいい～生まれてきてくれて ありがとう～」と題して，講演をしていただきました。「ダウン症」による障害を持った息子さんの誕生に，一度は，一生隠そうと決心されますが，子育てを通じて心が変化し，「人生は人との競争じゃない，いちばんじゃなくてもいい」と気付かされた体験を赤裸々にお話いただき，障害への理解を深めることができました。

三次市民ホールきりりを会場に，3つの合同イベントである「みよしいきいきふれあいフェスタ」内での開催であり，多くの市民の参加が得られ，「人権」を身近に感じていただき，効果的な啓発を行うことができました。

■ 「人権の花」運動（地域振興部）

植物を育てることで，子どもの情操をより豊かにし，命の大切さや相手への思いやりという人権を尊ぶ気持ちを育むことを目的に，広島法務局三次支局及び三次人権擁護委員協議会との共催で，栗屋小学校，神杉小学校，田幸小学校，みらさか小学校の4校にヒヤシンス栽培セットを贈呈しました。人権の花贈呈式及び感謝状贈呈式において，児童に対して人権講話や人権クイズなどを行い，人権に対する関心を高め，理解を深めることができました。

■ PTA人権教育講演会への補助（地域振興部）

小中学校が行うPTA人権教育講演会に対し補助を行い，児童生徒や保護者に対する人権啓発の取組を支援しました。

■ **みよし日本語教室（地域振興部）**

市内在住の外国人が日常生活を営む上で必要となる日本語能力を習得できるよう、「みよし日本語教室」を開催しました。日本語学習支援スタッフ 14 人の協力により、受講生は 43 人（令和元年度末現在）で、毎週火曜日と木曜日に開催しています。

また、持続的に日本語を学べる機会を確保するため、日本語学習支援スタッフ養成講座を開催し、日本語学習支援スタッフの確保及びスキルアップを図りました。

引き続き、誰もが暮らしやすい多文化共生のまちづくりを進めます。

■ **各種相談事業の充実（市民部、地域振興部）**

外国人が日常生活や地域、職場において各々の個性や能力を発揮しながら活躍できる社会づくりを推進するため、一般財団法人三次国際交流協会の協力を得ながら、外国人生活相談を毎週 1 回開設しました。今後増加が見込まれる外国人の方の窓口での諸手続きなどに対応するため、音声翻訳 11 言語、テキスト翻訳 30 言語の中から選択した言語に自動で翻訳し、タブレット端末に音声やテキストを出力する AI アプリ「ボイスビズ」の検証・実証を行い、本格導入に向けての準備を行いました。

また、弁護士による「市民無料法律相談」を毎月 2 回開設したほか、消費生活相談や人権相談など、市民が安心して相談できる体制の充実に努めました。

■ **女性保護対策事業（子育て支援部）**

配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV 防止法）に基づく暴力被害女性の保護を図るため、相談員を配置して対応しました。婦人相談では、DV（ドメスティック・バイオレンス）などの深刻な問題のほか、広く女性が抱える諸問題の解決のため、相談員による面談、電話相談を行いました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとつくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
「ひと・かがやき フェスタ 2019」 開催	690		690	開催日：12月8日 場 所：三次市民ホールきりり 参加者数：約 300 人 人権ハート絵展示数：181 点 (小学校 19 校, 中学校 13 校)
「人権の花」運動	109	国県支出金 68	41	【実施校】 市内小学校 4 校 ヒヤシンス栽培セット 320 個
PTA 人権教育講 演会への補助	121		121	【実施校】 市内小学校 5 校 市内中学校 1 校
みよし日本語教室	760		760	開催日：毎週火曜日・木曜日 日本語学習支援スタッフ 14 人 日本語学習支援養成講座 受講者 25 人
各種相談事業	3,947	国県支出金 904	3,043	無料法律相談(月2回) 113 件 消費生活相談 170 件 外国人生活相談(週1回) 35 件 生活相談 47 件
【再掲】 女性保護対策事業	2,114	国県支出金 1,057	1,057	婦人相談件数 297 件(実人数 53 人) (うち DV 相談 174 件 実人数 21 人)
計	7,741	2,029	5,712	